













# 革マル派組織論批判(上)

## 目次

(本号掲載) ①「革マル派」に代るもの  
②「革マル派」の形成過程  
③「革マル派」の形成過程(二)  
④「革マル派」の形成過程(三)

(次号掲載予定) ⑤「革マル派」の形成過程(四)  
⑥「革マル派」の形成過程(五)  
⑦「革マル派」の形成過程(六)  
⑧「革マル派」の形成過程(七)

### (一) はじめに

政治闘争の過程では、常に階級闘争の発展を促すという大衆的性質を帯びて、大衆からも受け、大衆にも与るものである。政治闘争の過程において、政治的、経済的、社会的、文化的な闘争は、互いに密接な関係を持って進んでいく。政治的闘争は、経済的闘争を前提とし、経済的闘争は、社会的闘争を前提とし、社会的闘争は、文化的闘争を前提とする。政治的闘争の発展は、他の闘争の発展を促すという大衆的性質を帯びて、大衆からも受け、大衆にも与るものである。

### (二) 革共同第三次分裂と革マル派組織論の形成過程

一九六三年の革共同第三次分裂は、革マル派の形成過程において重要な転機となった。この分裂は、革共同の内部で、革マル派の形成をめぐって激しい議論が行われ、最終的に革マル派が独立した組織として誕生した。この過程は、革マル派の理論的・政治的立場の明確化に大きく貢献した。革マル派の形成は、単なる組織的分裂ではなく、理論的・政治的立場の明確化を伴ったものである。

### (三) 革マル派の理論的・政治的立場

革マル派の理論的・政治的立場は、社会主義革命論に基づいている。革マル派は、社会主義革命を達成するために、階級闘争を徹底的に推進し、大衆の組織化を重視している。革マル派の理論は、社会主義革命の必然性を強調し、階級闘争の重要性を説いている。革マル派は、社会主義革命を達成するために、階級闘争を徹底的に推進し、大衆の組織化を重視している。

このように見れば、八木沢の「一」とは、他ならぬ、民主主義の徹底的な要求によって革命闘争に発展せざるを得ないというものである。民主主義の徹底的な要求は、革命闘争の発展を促すという大衆的性質を帯びて、大衆からも受け、大衆にも与るものである。

後のマル派の運動(組織)
そのものは、マル派の運動(組織)
そのものは、マル派の運動(組織)
そのものは、マル派の運動(組織)

だがこれらの結果は、マル派
自らが進んで対して、一対
一対の解決を準備しているの
みであって、あれがなかつた

「マル派」の立場
「マル派」の立場
「マル派」の立場
「マル派」の立場

「マル派」の立場
「マル派」の立場
「マル派」の立場
「マル派」の立場

見直しと政治的解決の高揚
解決され、それは一九三七年
以降のこの理論の提唱と

「マル派」の立場
「マル派」の立場
「マル派」の立場
「マル派」の立場

「マル派」の立場
「マル派」の立場
「マル派」の立場
「マル派」の立場

共産主義16号 近日発売・定価550円

- 第一部 主張—当面する革命戦争の更なる発展のために
第二部 共産主義者同盟(RG)結成に向けた党内—党派闘争
第三部 連合赤軍との党派闘争
(A) 連合赤軍の闘争に対する我々の態度
(B) 連合赤軍の党的破産と国際非合法党建設の道
(C) 連合赤軍に対する日共革命左派の態度
(D) 革命戦争の旗をおろした八木君の似非レーニン主義について

共産主義は、近日におこす。
共産主義は、近日におこす。
共産主義は、近日におこす。

共産主義は、近日におこす。
共産主義は、近日におこす。
共産主義は、近日におこす。